

伝えよう、三計と半九の教え

そっけん 息軒だより

百里を行く者は
九十里を半ばとす

旧宅梅



令和4年度2・3月号(第36号)

発行 宮崎市安井息軒記念館
管理 NPO法人 安井息軒顕彰会
理事長 齋藤義輝 館長 川口真弘
〒889-1605

宮崎市清武町加納甲3378-1

TEL 0985-84-0234

FAX 0985-84-2634

e-mail sokken.yasui@pic.bbq.jp

<https://yasuisokken.jp>

QRコードを読み取ると、記念館のホームページがご覧になれます

宮崎市安井息軒記念館令和4年度冬の企画展、開催中！

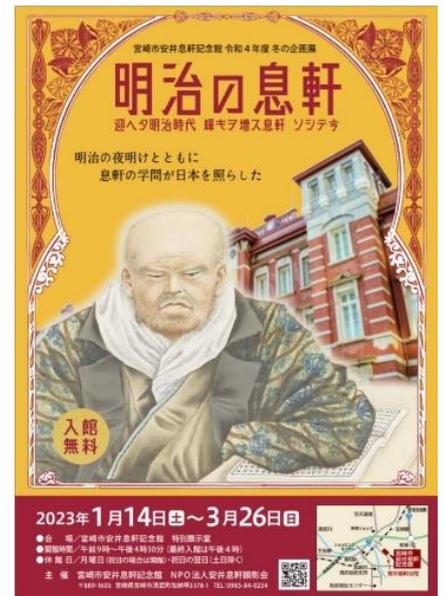
「明治の息軒：迎へタ明治時代 輝キヲ増ス息軒 ソシテ今」

特別展示室にて、3月26日(日)まで

今年度も「冬の企画展」が始まりました。当館特別展示室にて1月14日(土)より3月26日(日)まで「**明治の息軒：迎へタ明治時代 輝キヲ増ス息軒 ソシテ今**」展を開催しております。もうご覧になっていたかもしれませんでしょうか。

安井息軒といえば、従来「江戸時代の儒学者」と説明されてきました。たしかに息軒の77年に及ぶ生涯のうち68年間は江戸時代でしたから、間違いではないのですが、まるで「息軒は明治時代に入ると文明開化の奔流に押し流されて世間から忘れ去られてしまった。頑張って日本一の学者になったのに、最後の最後で全て無駄になってしまった。可哀そう」と言われているようで不満でした。そこで今回は、見に来られた方に「**明治に入ってから、息軒の思想や学問には大きな社会的ニーズがあったのだ。息軒は江戸の儒学者であるのみならず、明治の知識人でもあったのだ**」ということを感じ取ってもらえるような展示を心がけました。

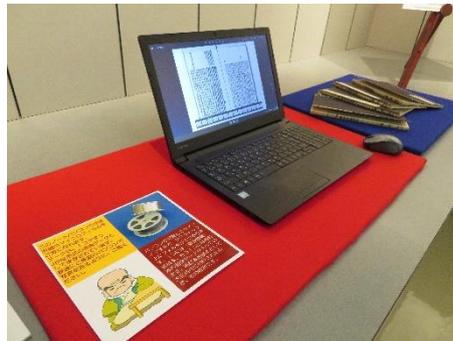
なお、展示されている本は手に取っていただけます。企画展に限り、写真撮影もSNSへの投稿も自由です。ぜひどうぞ。(文責：青山)



ポスターは、よくキャラメルみたいと言われますが、明治ゴシック・大正ロマンを意識したデザインです。



息軒の著述のうち、明治から戦前にかけて出版されたものを並べました。近代になってから出版された著述の数は、そのまま息軒の思想や学問を読んで学びたいというニーズの高さを物語っています。



今回は本館が所蔵するマイクロフィルムの一部をパソコン画面で見られるようにしました。これまでなかなか目にする機会がなかった息軒の直筆原稿をご覧になるチャンスです。ぜひお越しください。



宮崎放送の取材を受けました。ニュースは1月14日に放送されました。ほかにも1月19日の『読売新聞』、1月25日の『宮崎日日新聞』でも取り上げていただきました。

お佐代さんを偲ぶ会を開催

幼い頃にかかった天然痘の後遺症もあって、^{ぶおとこ}醜男だったといわれる息軒の外観にとらわれることなく、自らの意思で息軒に嫁ぎ、生涯を捧げた川添佐代。佐代は清武郷、岡の出身で近所でも評判の器量よし。しかも頭もよく優しい女性で、結婚当時、息軒が28歳だったのに対して弱冠15歳。息軒との間に4女2男の子宝に恵まれ、安井家を、そして三計塾を支えました。

さらに今回はもう一人の安井夫人、楨子さんにスポットを当てました。文久2年(1862)佐代は亡くなります。その後息軒を献身的に支えた女性がいました。その女性の名は楨子。慶應元年(1865)7月、当時66歳の息軒は楨子と再婚しました。息軒は佐代と同様に厚い信頼を寄せ、子どもたちからも頼りにされました。

川添佐代の命日が1月4日であることから、毎年1月の最初の土曜日に偲ぶ会を開催しています。今年の偲ぶ会は楨子も含めて二人の安井夫人を偲ぶ会となりました。理事長挨拶に始まり、「安井夫人」に詳しい当館の長野囑託員の講話に続いて、安井息軒廟横の佐代の供養塔の前で献花を行いました。安井息軒顕彰会会員や一般応募の方々、さらに今回は地元上中野の自治会長と「佐代の会」代表者もご参加くださいました。

修了後は茶道グループ「なでしこジャパン」の皆様のご厚意で美味しいお茶をいただき、その後、篠笛奏者、^{しのぶえ}物部聖子様^の演奏を聞かせていただきました。心に染み入る篠笛の演奏に一同うっとり聞き入っていました。



1月26日は文化財防火デー 消防訓練を実施しました！

昭和24年1月26日、当時世界最古の木造建築物であった法隆寺の金堂が炎上、壁画が焼損しました。これを機に翌年文化財保護法が制定され、昭和30年から1月26日を「文化財防火デー」とすることが定められました。安井息軒旧宅も大切な国指定史跡であり、定期的に防災訓練を行うことは極めて重要なことです。この大切な文化財を守るため、今年も宮崎南消防署、地元消防団、安井息軒記念館、消防設備会社、そして安井息軒顕彰会役員の連携による大規模消火訓練を計画していました。しかしながらコロナ禍の急拡大もあり、南消防署からは査察担当者2名、地元消防団は参加なしという形で小規模訓練を実施しました。とは言え、実際に放水も行う本格的な訓練です。初期消火である消火器の使い方はもとより、消防ホースの伸ばし方、接合の仕方等に関して丁寧な指導を受けました。今後もお客様の生命を第一に、そして大切な文化財を守るため、研修と訓練を深めていきたいと思っております。



3年ぶりの呈茶実施



当館をご利用いただいているお茶のグループのご協力を得まして、2月2日(木)から9日まで徐々に「呈茶」を実施しました。待ち時間には、庭園の梅を愛でるなどしてお楽しみいただき、好評でした。(文責・川口)



今に生きる安井息軒の言葉：息軒思想詮釈（読み直し）03

「器械の無敵なる者 勝つ」と申す証、至当の論にごぞ候ふ。いかほど兵勢 振ひ候ひても、器械 劣り候ひては必勝の儀 覚束（おぼつか）なく候ふ。（『靖海私議』、『日本海防史料叢書』6、p.155）

黒船が来航するや、息軒はすぐさま国防策を講じて『靖海私議』を著述しました。この著作は攘夷論と目されることが多いのですが、実際は“たとえ通商を許すにせよ、その軍事侵攻を跳ね返せるだけの軍備がなければ、自然と属国のようにになってしまう”という立場から、軍備増強の方法を説くものです。上引は兵器の一新を唱えたもので、要するに“武器の性能差は士気の高さでは覆せない”という、およそ日本的ロマンチズムからはかけ離れたリアリスティックな見解です。ウクライナを見ても、いかにゼレンスキーが国民を鼓舞しようと、NATO から最新兵器の供与がなければ、ロシア相手に抗戦は不可能だったでしょう。



■ 令和 5 年度安井息軒記念館新講座のお知らせ

令和 5 年 4 月初旬から 6 月下旬にかけて、「**「息軒会読：『弁妄』詳解**」と題して、安井息軒『弁妄』（明治 6）を毎回一篇ずつ詳しく解説しながら読んでいく読書会を開催します。講師は当館学芸員が務めます。あわせて平岩愼保「**弁妄批評**」（明治 13）も見ていきます。

『弁妄』とは息軒が『聖書』を批判的に分析した書物で、明治 6 年に島津久光の序文を得て刊行されて広く読まれました。明治 8 年には英国人により『BEMMO』として英訳出版され、英文書評が英字新聞に掲載されました。「**弁妄批正**」は、後に牧師となる平岩愼保が明治 13 年に発表した一連の論文で、キリスト教徒の立場から『弁妄』に反駁したものです

（文責：青山）

- ①4/08「弁妄」（一）
- ②4/22「弁妄」（二）
- ③5/13「弁妄」（三）
- ④5/20「弁妄」（四）
- ⑤5/27「弁妄」（五）
- ⑥6/10「鬼神論」（下）
- ⑦6/17「与某生論共和政事書」
- ⑧6/24「鬼神論」（上）
- ※「鬼神論」（上）はもともと『弁妄』に収録されていないので後回しにします。また予定は随時変更します

■ 息軒ふるさとウォーク

参加者募集

今回は、清武町中野や南加納に残る史跡や言い伝えとして今も語り継がれている場所などを巡る約 5.5 キロのコースです。終盤にかけて上り坂のあるコースとなりますが、当館で竹杖を準備しています。ウォーキングに適した歩きやすい服装・靴でご参加ください。

期 日：3月5日（日）

時 間：9：30 ～ 12：00（受付 9：10～）

集合場所：安井息軒記念館 定 員：30 名

申込締切：2月28日（火） 参加料：無料



早春の自然に親しみ、山桜でも眺めながら…

（文責：長野）

宮崎市安井息軒記念館の管理者に安井息軒顕彰会が指定されました！

12月15日付けで、宮崎市長から安井息軒記念館施設の管理運営団体に選定されました。指定期間は令和5年4月1日から5か年間です。過去2期は3か年でしたが、3期目は5か年に延長されましたので、会員や支援協力団体機関の方々と連携・協働してより内容の濃い企画と、開かれた記念館の管理運営を行っていきたく思います。会員の方々をはじめ関係者皆様方のより一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年度第21回安井息軒梅まつりの開催に向けて

2月11日(土・祝)、「梅まつり」の開催に向けて、1月14日(土)、第4回梅まつり実行委員会(16名)、1月21日(土)、第5回安井息軒理事会(15名)を実施し、慎重に協議しました。その結果今年の梅まつりはコロナ感染防止対策の徹底を図った上で、2月11日の午前中のみ開催することに決定しました。地元中学生を含めて、80名を超えるスタッフの業務内容と責任者等の確認をしました。さらには来場者やスタッフの方々が一緒に楽しめる梅まつりとしていくために最大限の準備をしまいいります。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



令和4年度「みやざき三計塾」が修了しました。

10月2日(日)から12月4日(日)まで、安井息軒の著作『論語集説』を読む、全6回の講座が終了しました。講師は宮崎大学教育学部准教授山元宣宏氏で、古典を解釈する上で欠かせない注釈書について、古注といわれる何晏の『論語集解』、新注といわれる朱熹の『論語集註』、『十三経注疏』に代表される注疏、またその他の注釈書についての解説をいただきました。受講生は「分からないと思いながら、聞いていくと、だんだん分かってきて楽しく勉強できた。来年度も楽しみです」などとコメントしていました。



この事業を助成していただいた「公益財団法人 日本漢字能力検定協会」にも感謝申し上げます。

<引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力ください>

- ・来館時はマスクの着用をお願いします。
- ・正面玄関に消毒液を設置しています。手指の消毒をお願いします。
- ・入館時の検温にご協力ください。



顕彰会会員大募集!!

- ☆ 当顕彰会では新規会員を募集しています。
- ☆ お問い合わせは右記事務局までお願いします。

☆ みなさまからお預かりしました会費は、情報紙等お知らせの郵送の他、自主事業の財源として活用されます。物価等の上昇により、会費の値上げを検討中です。

年会費

■一般会員	2,000円
■賛助会員	1,000円
■学生会員	500円
■団体会員	5,000円(1口)

NPO 法人 安井息軒顕彰会

事務局

〒889-1605 宮崎市清武町加納甲 3378-1
(宮崎市安井息軒記念館内)

電話：0985-84-0234 携帯：080-8589-0569

e-mail：yasuisokken@yahoo.co.jp

